

養殖魚需給検討会 議事概要

日 時：令和4年3月3日（水）14時00分～16時00分

場 所：水産庁漁政部第3会議室（オンライン接続有）

出席者：出席者名簿参照

概 要：主催者挨拶の後、佐野委員を座長として議事が進められた。事務局より資料1～5に基づき、令和3年のガイドラインの実施状況、ブリ、カンパチ、マダイの養殖生産数量ガイドライン（案）、養殖生産数量ガイドライン（令和4年漁期）（案）について説明があり、各委員から意見が述べられた。

養殖生産数量ガイドライン（令和4年漁期）【資料5】について、事務局より、国内の需要と均衡すると考えられる国内供給量（案）として、ブリ9.5～10万トン、カンパチ2.8～3.4万トン、マダイ6.0～6.4万トンを提示し、各委員の議論の結果、ブリ10万トン、カンパチ3.1万トン、マダイ6万トンで了承された。一方で、国内向けの生産目標量の表記方法について、分かりにくいという指摘があり、一部文言の修正を行い、再度メール等で意見照会を行うこととなった。

検討会で出た主な意見は以下のとおり。

●ブリの養殖生産数量ガイドライン（案）（資料2）

- ・ 国内の需給だけに焦点を当てた場合、平成25年以降の生産量を鑑みた場合、100千トン供給では国内需要ではやや多いのではないか。2020年度はコロナの影響が始まった年であるが、相場が下がった年である。90～95千トンが妥当な印象である。
- ・ 今年は甘めで良いのではないか。今年は在庫が少ない為、国内は残らず完売になることが想定できる。また、海外についても現在円安基調で輸出は伸びやすい状況である。従って、今年は100千トンの甘目にして、来期は状況を見て、例えば90千トンとする等検討することはいかがか。
- ・ （明け2歳魚の）在庫状況が少ないという状況を加味すると、少し多めでも良いかもしれない。

●カンパチの養殖生産数量ガイドライン（案）（資料3）

- ・ 国内の需要と均衡すると考えられる国内供給量は31千トンが限界ではないか。居酒屋などの業務筋での需要が多い魚種である。量販店でも販売しているが、価格が下がったら扱われ、高ければブリが扱われる。以前は、ブリは切り身、カンパチは刺身の位置づけであったため、過去の生産量でも売れていたが、今はブリの技術が向上し、刺身として利用されるようになった。また、コロナの影響はまだ続くと予想される。
- ・ カンパチは、輸出も殆どないことを踏まえると、ガイドラインの結論は出やすい魚

種という認識でいる。

- ・ カンパチは需要を超えた途端、極端に値が下がる魚種である。そうなった場合、生産者に大きく負担がかかる。従って、どちらかというところ、少し不足気味が維持されるようなイメージでいる。よって 34 千トンは無いと考える。多くて 31 千トンではないか。

●マダイの養殖生産数量ガイドライン（案）（資料 4）

- ・ マダイについては、国内の市場だけ焦点を当てて考えると、近年は生産しすぎると、生産者は苦しい環境であったと考える。従って 60～64 千トンが妥当ではないか。
- ・ 60 千トンが良いと思う。販売される年級が 2～4 歳と幅広く、かつ人工種苗で養殖されるため、場合によっては、いつでも生産可能な状況にあることから、今年は 60 千トンにしておき、1 年様子を見て需要が増えれば、来年の検討会で 64 千トンとすれば良いのではないか。
- ・ マダイの輸出はブリ同様に伸長すると考える。
- ・ マダイはブリと違って人工種苗で読みやすいと考えるが、少な目、多めどちらが良いとお考えか。
- ・ 難しい話題である。国内を抑えたところで、輸出が還流すれば国内相場は暴落してしまう。
- ・ ブリほどの大きな商圏ではなく、人口 5 千万人の韓国を主に輸出されているということは、ブリほど伸びにくいという見通しが立ちやすいのではないか。

●養殖生産数量ガイドライン（令和 4 年漁期）（案）（資料 5）

- ・ 「国内の需要と均衡すると考えられる国内供給量」と「国内向けの生産目標数量」の違いは何か。
- 「国内の需要と均衡すると考えられる国内供給量」は、現状を踏まえて設定する数量であり、「国内向けの生産目標数量」は養殖業成長産業化総合戦略を踏まえた目標値である。（水産庁）
- 養殖業成長産業化総合戦略上では、国内需要は維持するという考えである。（水産庁）
- ・ 「国内の需要と均衡すると考えられる国内供給量」と「国内向けの生産目標数量」が併記されており、分かりにくい。見やすい様式に変更することと、丁寧な説明をお願いしたい。
- ・ 養殖業成長産業化総合戦略の 2030 年目標は輸出量を含まれているのか明記いただきたい。

－以上－